潮流　一周年記念号

昨年７月に「潮流編集委員会」を設立し、紙面の発行を始めてから、この９月号で、記念すべき一周年記念号を迎えることができました。

一周年を記念し、皆様に紙面の論評をして頂きました。ご協力して下さった皆様、ありがとうございました。今後とも大津島地区コミュニティ紙「潮流」を宜しくお願い致します。

潮流編集委員会

安達　壽富　大津島地区コミュニティ会長

一周年おめでとうございます。

以前の「潮流」は、地域の情報を連絡するだけのものでした。しかし、昨年７月に「潮流編集委員会」が設立されてからは、紙面の内容も大きく一新されました。

リニューアルされ生まれ変わった「潮流」は、地域の情報をはじめ、地域の宝の掘り起こし、歴史の勉強など、内容は非常に豊かで、バラエティに富んでいます。これも編集委員の日々の努力の賜物だと思います。

私は、その努力に敬意を表します。そして今後も日本一の地域情報紙を目指して、共に頑張っていきましょう。

大津島地域情報紙「潮流」をご愛読していただいてる皆様、今後も「潮流」を含め、大津島を宜しくお願い申し上げます。

石田　博文　大津島出身者

「潮流」は多彩な内容で、島内外に住んでいる者に、大津島のよさを発信してもらっている。大津島には歴史があり、伝統があり、人がいて、それぞれが多くの才能を内に秘めている。そのよさを「堀り起こして」くださっているのが、「島おこし隊」の方であろう。そんな中、島を離れている者同士、少しずつではあるがつながりができつつある。

それはまだ小さい流れかもしれないが、今後大きな潮流になることを願いつつ、私自身もお役に立ちたいと思っている。これからも「潮流」が「ディスカバー大津島」の一助になることを期待している。

渡邊　あゆ子　大津島海の郷　勤務

ゆっくりと「潮流」

島にとって、私にとって、これは新しい情報誌です。

「潮流」の一番の特徴は、文章とカラー（色）で構成されているということでしょうか。

おかげで、文章を書いている人のこと、島の状況が、単なる文字情報よりもわかりやすく、身近に伝わってきます。

Ｕターン組の私にとって、この一年貴重な情報誌になっています。

その反面、情報の量が限られてくる、ということもあるのでしょうか。

でも、それでもいいかも。新しいことを、少しづつ、ゆっくり。

それは、新しい島の姿に通じて行くのかもしれません。

私もそんな姿を目指したい。

島に帰って２年目の今、思っています。

屋野　郁夫　大津島出身者

年の割に元気そうな父と、ペンギンのように歩く母。

島に住む「老老介護のモデルケースになってもらおう？」と家をでて１３年になります。

帰省の度にお世話になった方々の変わりゆく腰の角度に、「次は、いつ帰ろうか」と思いつつフェリーに乗ります。

便利よりゆっくりした暮らし易さを選び、誰かが誰かの世話になり、誰かのために役立ち、ただ居るだけで十分な人もあって「潮流」は、その事を思い起こさせてくれます。祝一周年。

追伸：時々地元に帰ろうじぇじぇ。

末兼　正純　潮流編集委員会

お陰様で、新「潮流」一周年を、好評のうちに迎えることができました。

編集委員一同、より良い紙面作りを目指して今後とも頑張って行きたいと思っています。

２年目を迎えるにあたり、料理欄の代わりに「大津島の人々」と題して、人物紹介を連載することに致しました。

“みんなのコミュニティ紙”のために、人物欄や寄稿欄へのご協力とともに、幅広くご感想やご意見をお寄せ下さるようお願い致します。

～「新規執筆者募集のお知らせ」～

皆さん、「潮流」の記事を書いてみませんか？潮流編集委員会では、執筆者を募集しています。

内容は、**日頃思った事のエッセイ、物語、昔話、俳句、俳画、絵画、**などです。皆さんの素敵な作品の寄稿をお待ちしております。

【受付先】　大津島地区コミュニティ　潮流編集委員会　事務局

大津島支所　0834（85）2001

DE すがね編集委員長　須田 浩史

「潮流」の新装一周年、おめでとうございます。須金のコミュニティ誌「DE すがね」編集委員一同、心よりお喜び申し上げます。

大津島と須金の交流には、長い歴史がありますが、私たちコミュニティ誌の編集委員の間にも、新しい出会いがありました。

それは、弊誌が今年の２月に発刊一周年を迎えた際、「潮流」の編集委員である末兼さんより、お祝いと応援の文章をいただいたことです。その後、本当に面白く、価値のあるコミュニティ誌を作るため、両地区の編集委員が交流し、研鑽する機会を設けることとなり、今年の３月、第１回交流会を大津島で開催しました。

交流会の成果は、今後発刊される合併号に譲るとして、過疎化・高齢化に負けない新しい魅力（人・物・歴史・文化・食など）を「潮流」と共に、発信していきたいと思います。

大津島にも須金にも、眠っている宝物がたくさんあると、私は確信しています。

須金地区老人クラブ連合会　前会長　福田孝式

大津島と須金の老人クラブ交流会は、昭和59年４月20日、須金より45名がセンターバスに乗ったまま馬島に渡り、回天記念館で開催されました。バスに乗ったまま、刈尾、瀬戸浜、本浦、馬島の案内に、潮干狩りも楽しませていただき、袋一杯の貝を持って帰ったことは昨日のように懐かしい想い出です。

以降、春は大津島、秋は須金と、年２回の交流会を続け、本年は30年目の節目の年です。

また、平成３年２月11日には、当時の小川亮徳山市長さんの立会いのもと、両地区のコミュニティは姉妹縁組の締結もさせていただきました。

離島と山間という生活環境に差異はあるものの、へき地で人口減少や高齢化といった同じような課題を抱えた両地区です。（ただ、大津島の方は人口密度が須金の５倍くらいあると苦笑したものですが。）

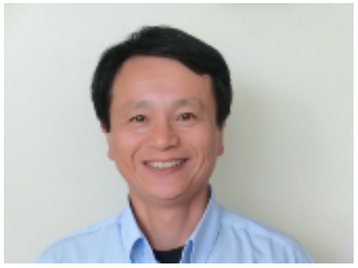
今後もお互いに切磋琢磨し、元気な地域づくりを進めてまいりましょう。そして、機関紙「潮流」のリニューアル一周年、誠におめでとうございます。

毎号拝読させていただき、“島おこし活動”の素晴らしさを強く感じており、多くのことを教えられています。

豊富な観光資源をはじめ、何より水や空気がおいしく自然が溢れる大津島。
「潮流」の更なる伸展を祈念しております。

公私ともにお世話になった50年。いつの間にか私も90歳を過ぎてしまいました。

池永　郁夫　大津島幼小中学校　校長



継続は力なり

「潮流」一周年おめでとうございます。これまでの発行と執筆者の方々に敬意を表します。ためになる話題が多く、毎回楽しみにしています。

さて、吉田松陰の逸話を紹介します。松陰が幼き頃、兄の梅太郎と毎日叔父の所へ勉強に通っていました。ある年の元旦に梅太郎が「今日だけは、休もうではないか。」と言ったところ、松陰が「兄さん、正月も一年の中の一日ですよ。」と言い、それにうなずいて共に出かけたそうです。何事も続けることが力となることを子どもたちにも伝えています。「潮流」がさらに発展していくことを願っております。

高松　正　大津島観光協会　顧問

新しい「潮流」をを手にした時に、「あれぇー」思わず奇声が出た。何時もの潮流とは“容”（かたち）がまるで違い、印刷もカラーである。

かつて、「潮流」の創刊者の故石丸適氏が公民館の事務室で孤軍奮闘して執筆して居られたが、市の広報の補助的な域を出なかった。

それに比べ、表紙は各部落の盆踊りや神社の正月風景などのカラー写真、ページをめくると診療所医師の愚痴など毎号変わる色々な人達の随想、連載の「知っちょるかね」「ひろしのつぶやき」など懐かしい昔の話、次号が待たれる季節の俳句と俳画、料理教室も役に立っていると思われる…味気なかった広報紙から文芸誌のように変わった潮流に改めて驚いた次第。

また、島おこし隊員の尽力で、島出身者の意見交換会が開催されていることを記事で知った。その中で出身者が、故郷大津島への澎湃として湧き出る愛着の気持ちを語る文を読んだとき、小生の若い頃と同じだと嬉しく感じた。一層の活躍を期待したい。

本浦の中学校校地決定に際しての本浦の委員の方の決意と努力の記事など、今後「潮流」に期待するものは数多い。